

火打山濁股川

北信頸城

三田原山より

1994年4月2日～3日

メンバー：佐藤 晶彦 他2名

2日（曇のち晴） 妙高国際スキー場のゴンドラ、リフトを乗り継ぐとリフト終点は標高1850m、まだ、小雪がちらついている天気だが、黒姫山方面の雲は切れだした。小沢を1本渡り、トラバース気味に三田原山を目指して登っていく。妙高外輪に上がると風が冷たいが、天気は回復し、火打山、焼山が真っ白な姿を見せてくれた。三田原山山頂でシールを外し、黒沢池に滑り込む。

再びシールを付けて一登りで高谷池である。高谷池ヒュッテは3階が解放されており、布団、毛布もあって快適だ。

3日（晴、強風） 天気は良いのだ

が、風が強く、雪も堅い。天狗の庭に上がるとさらに風は強くなり、まともに歩いていられない。火打を越えて焼山へ向かう予定であったが、濁俣川滑降に予定変更とする。雪崩の心配があるため濁俣川滑降の記録はほとんど無い様だが、今日の縮まった雪なら大丈夫だろう。

出だしはカール状の大斜面だが、雪が堅く慎重に滑る。ゴルジュに出る標高差100m程の急斜面は、アイゼンで下る。鬼ヶ城の岩壁が威圧的だ。ゴルジュを抜けると再び斜面は広くなり、鬼ヶ城をバックにした景観はカナダヘリスキーの気分である。1260m付近から左の尾根上に登り、濁俣川を離れる。

あとは澄川ルートと同じで、発電所を経て、緩やかな林道を、菅沼の町外れまで滑って行った。

タイム：2日 スキー場上部1010-三田原山1220/35-高谷池1410

3日 700-ゴルジュ下部1015/40-発電所1340-菅沼1525

